

タイ王国タマサート大学教養学部創立60周年の節目に

シリントン王女殿下から特別功労賞

タイ王国タマサート大学教養学部の創立60周年記念式典が3月24日、タイ王国の王女殿下を招き同校で行われました。市と同校の学生が積み重ねてきた交流が国際交流の進展に寄与したことが評価され、式典の中で王女殿下から特別功労賞を授与されました。

日・タイ文化交流として平成7(1995)年に旧西根町とタマサート大学で始まったホームステイ事業は、これまでに23回行われ、延べ307人のタマサート大学生を本市で受け入れてきました。この事業では学生と市民が親睦を深め、互いの文化の違いを学び、両国の国際交流は大きく進展してきました。

今回の表彰はこれら市の取り組みに対して、同校教養学部創立60周年の節目に合わせて、王女殿下から特別に表彰されたものです。

同校の講堂で午前9時から行われた授与式には、佐々木孝弘市長など関係者が出席。前に進み出た佐々木市長に対し、王女殿下から特別功労賞が授与されました。

ホームステイなどの交流事業は、新型コロナウイルスの影響により3年ほど前から休止が続いていましたが、外国人の入国に係る水際措置が解除されたことなどから、市は本年度の事業再開に向けて大学との調整を続けています。



シリントン王女殿下(左から2番目)から特別功労賞を授与される佐々木市長(タマサート大学講堂、3月24日) =写真は同大学提供=

前回令和元(2019)年の交流や文化体験の様子

八坂神社山車



交流会



日本文化体験



市ホストファミリーの会
会長 鈴木 信一 さん =白屋=



交流の再開を願う

タマサート大教養学部が創立60周年と聞き、中断はありますが、おおよそ、その半分近くの年数の交流を積み重ねたことに感慨を感じます。

旧西根町の交流事業で訪問した学生の宿泊を受け入れたのが始まりで、関係各位の協力で活動してきました。現在は受け入れが中断していますが、交流が再開出来れば良いと思います。

私たちの会の活動に賛同いただけるファミリーを増やし、継続して交流していきたいと思えます。

市ホストファミリーの会では、会員を募集しています。

タイ国タマサート大学生のホストファミリーとなって、国際交流を深めませんか。

■問い合わせ先 同会事務局 工藤 保(☎・76-3396)